

叱るばかりが特効薬ではない

8 家庭教育シリーズ

小学五年生の作文

僕は、よく父母から叱られます。あまり叱られるので数えてみました。「早く起きなさい」で始まって「それどうして」「それなに……」など……の小言までいれるときりがありません。今日一日で

小言のようなもの 父 三回、母四十一回
ひどく叱られたこと 父 一回、母四回
とうとう四十九回です。そして「えらいね」とほめられたのは、ただの三回でした。

夜寝るとき、どうして親は叱ることが好きなのか、もつと叱るのをまとめてくれたらなあと思いました。しかし、考えても無駄なので「シンドイことだ」と思いながら寝ました。

親は、多様な形で子どもをよく叱る、いや親は叱った、と思っている。時と所をかまわず、自己満足するまで叱り続ける。受けて立つ子どもはたまったものではない。しかし、よくしたもので、子どもはさりと身をかわし、うわの空で聞いています。

「理由を聞いて叱って」
「最後まで聞かないでガミガミ」

「すぐにぶつのはやめて」

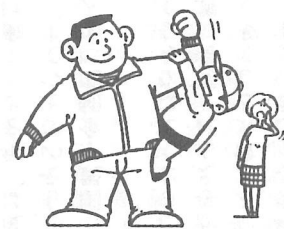
話もしないうちに体罰を加えないでください。
「心を込めて叱って」
もつときちんと叱ってください。

子どもの願いが、たとえ、自分勝手なところがあるにしても、お母さんは、子どもなりの心からの切望を聞いてあげてください。

しかし、お母さん、叱ってはいけないのはありません。次のような場合は叱らなければならぬことです。叱ったと、きちんと叱ってもらいたい。

- (一) 子どもがしなければならぬことをしなさい
- (二) してはいけないことをしようとする時
- (三) 好ましくない行為や、よくない人間関係を持ち続けている時
- (四) 他人が迷惑をするような時
- (五) 生命を危険なことから守らなければならない時

「自分が反抗しても「いけない」と言わない」と言うガンコさがあってもよい。
どんな場合でも子どもを叱ることは、新しい行動をするようなことであり、自分の行動の見直しをすることが出来るようになることです。叱ることは、ただ子どもを裁くことではないはず。叱った親も叱られた子どもも淋しいものです。
しかし、本当に子どもにとつて望ましい叱り方であるならば、子どもはそれを理解することができ、反省し、実行するようになります。お母さん、叱るばかりが特効薬ではありません。本当の「叱る」意味を考え、実行してください。



家庭教育指導員

大木 國 臣

覚えておきたい6項目

1. 何があったか (けんか・交通事故・強盗など)
2. いつ、どこで (発生時間・場所・目標物など)
3. 犯人の手がかり (人数・人相・着ていたもの・特徴など)
4. 逃げた方向 (〇〇駅・××通り・東西南北の方向など)
5. 何で逃げたか (徒歩・自動車・バイクなど)
6. 通報者の名前・現在地など

正しい110番のかけ方

通報は落ち着いて
正確に、はっきりと

